

東京大学海洋研究所共同利用研究集会

海底地盤変動学のススメ

—地形学，地質学，地盤工学からのアプローチ—

日 時：平成21年11月20日（金）10:00～17:30

場 所：東京大学海洋研究所 講堂

〒164-8639 東京都中野区南台 1-15-1 TEL 03-5351-6342

コンピーナー：川村喜一郎、財団法人深田地質研究所、03-3944-8010, kichiro@fgi.or.jp

海洋研対応者：芦寿一郎、海洋底地質学、03-5351-6439

このシンポジウムでは、地形学、地質学、地盤工学の海底地盤変動に関心のある方々と、その発生プロセス・メカニズムが未だよく分かっていない海底地すべり、海底斜面崩壊について議論したいと思っています。そして、その延長にある地すべりに関連する堆積物やそれによる周辺への影響、さらには海底地すべり、海底斜面崩壊のアナログとしての陸上地すべり、陸上崩壊現象についても議論していきたいです。

世界的には、この手の研究例は数多く出てきており、湖堆積物の研究例のいくつかは、古地震イベント堆積物の発生メカニズムに直接的に結びつくものです。斜面崩壊由来の古地震イベント堆積物（タービダイトなど）は、斜面崩壊から堆積までの一連のプロセスを総合的に理解することが必要です。一方、大西洋やハワイでは、津波の発生メカニズムに関連する研究例もあります。沿岸の構造物に対する影響が深刻なフランスの空港では、その総合理解に向けた研究が進行しています。さらに、斜面崩壊や海底地すべり現象が、海底ケーブルを切断する事例は、今後無いとは言い切れません。これは日本における潜在的な自然の脅威になると思います。ほとんどの社会機能をインターネットに頼っている現在の日本社会において、海底ケーブルを脅かす可能性のある海底での自然現象は、日本の経済、安全保障、ありとあらゆる国会機能を脅かすと言っても過言ではありません。このような海底での現象は、直接的に我々に見えないからこそ、我々がちゃんと意識しなければいけない、第一級の21世紀の研究課題だと思います。

プログラム

10:00-10:10 はじめに 川村喜一郎・芦寿一郎

10:10-10:20 川村喜一郎(深田地質研究所)・安間了(筑波大学大学院) 海底地すべりは崩壊性地すべりか? 南海トラフとチリ海溝の例

10:20-10:40 横瀬久芳(熊本大学) ハワイ諸島で発生する巨大地滑りの頻度に関する検討

10:40-11:00 金松敏也(JAMSTEC) 南海トラフの海底地すべり(仮)

11:00-11:30 坂口有人(JAMSTEC) 南海トラフの古地震イベント(仮)

11:30-12:00 野田篤(産業技術総合研究所) タービダイトによる地震活動履歴の保存可能性

12:00-13:30 昼食

13:30-14:00 國生剛治(中央大学大学院) 海底地滑り発生メカニズムへの地盤工学からのアプローチ;地震時液状化による水膜流動メカニズム

14:00-14:30 山本由弦(JAMSTEC) 沈み込み帯における海底地すべりの発達様式:地質とモデル実験の比較

14:30-15:00 阪口秀(JAMSTEC) コンピューターシミュレーションが拓く地すべり研究(仮)

15:00-15:30 佐藤正(筑波大学) ジュラ紀の海底地すべり-葛生石灰岩体-

15:30-16:00 横山俊治(高知大学) 軟岩の地震時地すべり、陸上と海底の比較

16:00-16:30 酒井直樹(防災科学技術研究所) 地すべり実験から考える海底地すべり(仮)

16:30-17:00 山田泰広(京都大学大学院) アナログ実験にみる海底地すべりの実像(仮)

17:00-17:30 小川勇二郎(筑波大学) 房総三重点の巨大崩壊

総合討論 海底地盤地形変動学, 海底地すべり, 海底斜面崩壊の未来像
交流会